

第 26 回地方独立行政法人神戸市民病院機構評価委員会 欠席委員の意見

<評価についてのコメント>

○ 第 1-2-(1) 高度医療並びに専門医療の充実並びに医療需要に応じた医療の提供

中央市民病院として、高度医療をどこまでやらなければならないか。地域医療構想の中でも位置づけられることになるが、中央市民病院は超急性期病院として、どの程度までの水準を目指さないといけないのか、将来を見据える必要がある。

○ 第 1-3-(2) 医療安全対策及び医療関連感染（院内感染）対策の強化

中央の規模で、医療安全管理室の専従スタッフが看護師 2 名（しかも内 1 名は今年 4 月着任）、事務 1 名は体制として少なくないだろうか。医療安全のガバナンスの見直しの必要性が問われている昨今、十分な医療安全の取り組みにつながるように体制に不十分な点はないか見直しをはかっていたきたい。

○ 第 2-1-(3) 人材育成等における地域貢献

潜在看護師の復職支援について、研修を 2 度開催して中央と西でそれぞれ 1 名の参加という実績とのことであった。採用を目的とするのではなく、あくまで社会貢献の一環であり、丁寧に対応するために定員も 5 名だったと後日説明をいただいた。現在の記載であれば、とても活発に展開されている新しい取り組みのように読めたので、きちんと目的の明確にした上で、課題や今後の方向性についても触れたほうが実態に即した内容になるのではないか。

2025 年問題でも、看護師不足は深刻な課題の一つである。ぜひ神戸市民病院機構という公的な医療機関がその牽引役として前向きな役割を果たしていただきたい。

○ 第 2-2-(2) 働きやすい環境の整備

職員満足度調査では、満足していない 25~30%に注目すべきではないか。職員が共通認識として変えないといけないと思っているが、改善できていないところが事故につながることもある。全体として評価が高くても、個別に見たときにどうかという視点も必要である。

○ 第 3-1-(1) 安定的な経常収支及び資金収支の維持

財務比率を見ると、リスクが高まっていると感じている。今、調子がいいけれど、心配する必要がある。